

## 教科目名 プロジェクト演習 (Projected Practice)

専攻名・学年 : 全専攻 2 年 (教育プログラム 第 4 学年 ◎○科目)

単位数など : 必修 1 単位 (前期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 一宮一夫, 高橋徹, 相本正吾

授業の概要				
特別研究の遂行には、論文作成能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力などが必須である。この教科では縮約練習などにより、論文作成の際に役立つ論理的な思考法や文章構成法を習得する。更に、実践的なディベート方式の授業により、自らの力で考え、表現できる能力を養成する。				
達成目標と評価方法		大分高専目標 (A1) (C1), JABEE 目標 (a) (f)		
(1) 縮約練習を通し、日本語による文章構成法を習得する。(小テスト, 定期試験)				
(2) 漢字・送り仮名など、日本語の基本について再確認する。(小テスト)				
(3) 文章のパラグラフ化を理解し、論文を論理的に構成できる。(定期試験)				
(4) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できる。(ディベート, 定期試験)				
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検	
1	[日本語表現] 「日本語練習帳」の解説、縮約練習の説明	教科書「日本語練習帳」の内容を理解する。特に、文章の構成力を身につける上で役立つ「縮約」の練習法について学ぶ。	【理解の度合い】	
2 ～ 6	縮約練習、解説	新聞の社説など、与えられた文章について縮約を行う。縮約した文章は教員によって評価される。毎回、100点満点中80点以上を取ることが望ましい。		
7	「理科系の作文技術」の解説 パラグラフ化の練習	教科書「理科系の作文技術」の内容に触れる。特に、文章のパラグラフ化について学習する。		
8	小テスト	2～7 回まで授業の最初に漢字などの小テストを行う。		
9 ～ 11	[ディベート] 解説、グループ分け、 資料収集、論点整理、作戦会議。 (賛成・反対の決定はディベート直前に行うのでどちらの側でもディベートできるように準備する。)	与えられた複数のテーマについてディベートを行う。 学生は 2～3 名ずつの班に分かれ、それぞれのテーマについて 2 つの班が賛成派・反対派の立場となりディベートを行う。ディベートの判定は、教員およびディベートに参加していない班の学生によって行われる。		
12 ～ 14	ディベート	9～11 回まで、縮約練習を課題とする。		
15	前期期末試験			【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説			
履修上の注意	縮約練習をする上で必要な国語辞典などを用意すること			【総合達成度】
教科書	大野 晋, 「日本語練習帳」, 岩波書店。 木下 是雄, 「理科系の作文技術」, 中央公論新社。 ディベート用プリント。			
参考図書	松本茂, 「頭を鍛えるディベート入門」, 講談社。			
自学上の注意	教科書の対応箇所を読んでおくこと。日常において理系の作文を行う際には、パラグラフを意識して作文する習慣をつける。文章を読む場合には、事実か意見かを意識しながら読む。縮約の課題は時間を切って行うこと。			
関連科目	法学概説, 経済学概説, 哲学概説, 歴史学概説, 日本語表現法, 地域日本文学, 卒業研究, 特別研究 I, II (専攻科)			
総合評価	授業中の小テスト・縮約練習結果・取り組み状況 (約 70%) と定期試験 (約 30%) により総合評価する。 再試験は特別の事情がある場合にのみ行う。			【総合評価】 点